平成19年６月橋本市議会定例会会議録（第４号）の２
平成19年６月13日（水）

（午前９時31分　開議）

○議長（中上良隆君）おはようございます。

ただ今の出席議員数は23人であります。定足数に達しております。

○議長（中上良隆君）これより本日の会議を開きます。

日程第１　会議録署名議員の指名

○議長（中上良隆君）これより日程に入り、日程第１　会議録署名議員の指名　を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第81条の規定により、議長において３番　富岡君、24番　中西健君の２人を指名いたします。

日程第２　一般質問

○議長（中上良隆君）日程第２　一般質問　を行います。

順番16、13番　瀧君。

〔13番（瀧　洋一君）登壇〕

○13番（瀧　洋一君）おはようございます。議長のお許しをいただきましたので、通告に従いまして一般質問を行います。

質問の前に、さきの選挙で当選させていただき、指定席でありました傍聴席からマイクのある議席へと、そして、今、演壇で発言をさせていただくことの重みを十二分に感じるとともに、市民の皆さま方のご期待に背くことのないよう頑張ってまいりたいと思います。まだまだ未熟者ではございますが、市長をはじめ、理事者の方々、そして先輩、同僚議員の皆さまのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げまして、質問に入らせていただきます。

今回は、街頭で訴えてきたり、また、市民の方からの要望の強い２点について、私たちの未来は私たちの手で！　市民と行政が一体となったまちづくりをめざして、提言を含めた形でお尋ねしたいと思います。

まず、１点目は、防災行政についてであります。

私が最初にこの問題を取り上げましたのは、私自身が神戸出身であり、1995年１月17日に発生いたしました阪神・淡路大震災当日の悲惨な情景、特に１階が押しつぶされ、２階部分の抜けた壁から飛び出した教科書やドリル、それらが道路上に散乱し､「お父ちゃんを返して」と泣き叫ぶ娘さんの声、今でも脳裏から耳から離れることはありません。大好きなまちが一瞬にして失われる惨状をいかにみんなの力で減らしていくのかが最大の課題であると考えるからであります。

また、この１週間でも大分県中部を中心とする地震が連続多発し、一昨日も石川県で震度４を記録する地震が発生しております。まさに、災害はいつ起きても不思議ではありません。

本市におきましても、南海・東南海地震はもとより、発生すればマグニチュード８クラス、実に兵庫県南部地震の16倍のエネルギーを持った中央構造線を抱えております。

一方、風水害も忘れてはなりません。1998年の台風７号など、過去に大きな災害をもたらしております。

また、一昨日の21番議員の質問にもありましたが、土砂災害の危険地域に学校、保育園が含まれていることも忘れてはなりません。

災害から市民の生命、財産を守ることは、行政に課された最大の責務であります。県では、この３月に和歌山県地震防災対策アクシ

ョンプログラムを改定いたしました。本市におきましても、木下市長が掲げる安心・安全のまちづくりは大変重要な施策であります。

新市合併から１年、橋本市として地域防災計画ができつつあると聞いております。また、自主防災組織の組織率も急速に進み、橋本市安全・安心プロジェクトでは、平成21年度までに80％の成果目標を設定していますし、以前、議会で市長は100％をめざす、こんなふうに答弁をされていたことと思います。

しかしながら、計画や制度だけでは災害発生時に機能しないのではないかと危惧しております。市民が自ら命を守る自助、これは、自ら助けると書きます。地域で守る、ともに守ると書きまして共助。それに加えて、行政が行う、公が助ける公助、これが相まって防災力を高めていくと言われております。

そこで、市民の防災意識を高め、市民と行政が一体となった防災協働社会実現をめざす観点から、以下の点についてお尋ねいたします。

１．地域防災計画の概要についてお聞かせください。

２．地域防災計画の発行部数とその配布先はどうお考えですか。また、できているのであれば、早急に配布をお願いしたいと思います。

３．自主防災組織の組織状況とその指導体制についてお聞かせください。

４．2005年に旧高野口町では防災マップ、旧橋本市では防災ハンドブックが配布されていますが、新橋本市として、地震、活断層、洪水、土砂災害に備えたハザードマップの作成が必要と考えますが、計画や作成方針についてどうお考えですか。

５．市民を対象とした防災講座を開催してはいかがでしょうか。

２点目は、絵本を通した子育て支援についてであります。

少子化はすさまじい勢いで進んでおります。本市においても例外ではなく、20年後には生まれる赤ちゃんは半分近くになると言われております。そんな状況の中、絵本を通した子育て支援としてブックスタート運動を提言したいと思います。

地域に生まれたすべての赤ちゃんを対象に、最初の健診時に絵本の読み聞かせとともに配布し、絵本を通した親子の触れ合いの時間をプレゼントするブックスタート運動が1992年、イギリスで開始され、日本においても2000年の子ども読書年を契機に多くの自治体で実施され、この３月末現在、598市町村で実施されております。市町村合併が進んでおりますので、全国の約３分の１に当たります。県下では新宮市をはじめ８市町、近隣では河内長野市、高野町でも既に実施されています。

このブックスタート運動では、赤ちゃんと絵本を開く楽しい体験とともに、絵本を手渡すことで赤ちゃんと保護者がゆっくり向き合い、楽しく温かい時間を持つきっかけをつくります。これは、近年、問題となっております虐待を防止し、また、本好きの子どもたちを育てていくことにもつながります。絵本という仮想体験を通じて思春期を乗り越えていく力を身につけていくのも絵本の力であると言われています。

さらに、ブックスタートを通して、赤ちゃんの幸せを願う地域の人たちが出会い、親しくなることでより良い子育ての環境づくりを考える関係も生まれ、地域での子育てを支援することにもつながっていきます。

つまり、ブックスタートは、絵本という物を配るのが目的ではなく、絵本を通して子どもたちの心を育てる。そして、また、子育てに悩むお母さん、お父さんの心の不安を和らげる大切な事業であります。

絵本数冊とかばんなど、１人当たり1,000円程度です。1年間に生まれる赤ちゃんが500人強ですので、ざっと50万円程度の予算と、多くの予算は必要としません。もちろん、配布するだけではなく、定期的に読み聞かせ会を行うなどのフォローアップも重要となってきます。その点で、子育て支援センター、保健センター、図書館、地域ボランティアの方など､赤ちゃんの幸せを願う気持ちを共有し、それぞれの専門性を生かしながら、一体となって推進していく必要があります。

実施に向けての見解をお伺いいたします。

以上、明快な答弁を期待いたしまして、私の１回目の質問を終わります。

○議長（中上良隆君） 13番　瀧君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君） 皆さん、おはようございます。

瀧議員は今日まで毎日のように傍聴席へ詰められて、熱心に傍聴しておられる熱意に対して敬服いたしておるところでございます。いよいよ議員として、こうして参画されるようになりました。よろしくお願いいたしたいと思います。

それでは、瀧議員のご質問にお答えをしてまいります。

１番目の地域防災計画の概要でございますが、この計画は、災害対策基本法第42条の規定に基づき、橋本市防災会議に諮り策定する計画でございまして、平成18年３月の合併に伴い、全面的に改定いたしました。

内容としましては､市､県､指定行政機関、指定公共機関、指定地方公共機関の防災関係機関がその有する全機能を有効に発揮して、市域における災害に係る災害予防、災害応急対策及び災害復旧、復興対策を実施することにより、市域並びに市民の生命、身体及び財産を災害から保護することを目的とし、防災関係機関が処理しなければならない本市の地域に係る防災に関する事務または業務について総合的な運営を計画したものでございまして、災害予防計画、災害復旧、復興計画などから成る基本計画編、地震、風水害等及び事故災害の応急対策から成る災害対策編及び資料編の３編をもって構成しております。

次に、地域防災計画の発行部数と配布先でございますが､成果品として500部を作成しております。配布先は、市行政各部署、市議会議員各位、拠点避難施設、防災拠点施設、防災委員、関係事業所、相互応援協定及び物資協定を締結している市並びに災害時に物品の供給協定を結んでいる事業所等に配布する予定で進めてございます。

防災計画書の成果品、私の手元にあるわけでございますが、これを500部、今申し上げたように配布したい。議員の皆さんにはこの最終日に配布を予定いたしてございます。

次に、自主防災組織の結成状況とその指導体制についてでございますが、現在、自治会単位で106地区のうち結成済みが31地区で約30％、結成準備中の地区が約40地区ありまして、準備中がすべて結成されたと仮定しますと､合計で約60数％になる見込みであります。

また、指導体制についてでございますが、結成準備中の地区については、早急に結成を推進するとともに、将来的には（仮称）自主防災組織連絡協議会等の結成も視野に入れながら、意見交換や研修会、合同訓練等の機会を提供することにより意識の向上に努めたいと考えてございます。

また、未組織の地域につきましては、それと並行して強力に結成の推進に努力していきたいと考えております。

次に、ハザードマップの作成計画や作成方

針ですが、合併に伴い、地域防災計画の作成にあわせて市全域の防災マップを作成しました。この防災マップには、国土地理院の都市圏活断層図による断層位置や土砂災害危険地区、拠点避難場所、防災活動拠点、防災ヘリコプター離着陸場、小学校区等を掲載しております。

議員おただしのハザードマップ作成については、今後、新市として、地震、活断層、洪水に備えた、さらに見やすく利用しやすいハザードマップの作成に努めてまいりたいと考えております。

次に、防災講座の開催についてでございますが、いつ起こるともわからない災害について、市民に啓蒙啓発する手段として非常に有効であると考えているところです。したがって、市内におられる防災に対する深い識見をお持ちの方や防災活動に熱心な方などにお願いをすることにより、各地域での講習会の開催や市内のさまざまなところへ出向き、危険箇所の探索などの災害図上訓練の催しを今後、研究してまいりたいと考えております。そうした意味合いにおきまして、ご理解をお願いいたしたいと思います。

なお、残余の件につきましては、担当参与よりお答えいたします。

○議長（中上良隆君） 健康福祉部長。

〔健康福祉部長（上田敬二君）登壇〕

○健康福祉部長（上田敬二君） 絵本は、子どもを豊かに育てる良い資源であり、子どもにとって身近な人に絵本を読んでもらうことは楽しく、心地よい時間を持てることと考えております。

市では、絵本の配布という形はとっていませんが、乳児健診時に配布する子育てポイント集の中へお薦めする絵本の紹介ページを入れ、また、10カ月の健康相談のときには、実際に絵本を読み聞かせることにより、保護者に絵本の大切さを理解してもらう機会をつくっています。さらに、乳児交流会においても絵本を紹介したり、読み聞かせる機会もつくっております。

未就園児童がいる家庭への支援として、親子サークルへの活動費の助成や地域子育て支援センターを２カ所で整備し、絵本を楽しむ機会が持てるよう心がけています。

また、地域のボランティア団体による読み聞かせなども行われており、地域の力もお借りしながら、子どもたちが本に興味を持って育っていけるよう支援していきたいと考えております。

次に、議員がご提案されております、絵本を通じた親子の触れ合いの時間をプレゼントするブックスタート運動につきましては、平成16年に健康課、こども課、図書館の間で実務担当者会が開かれ、毎月実施している10カ月フォロー教室においての図書館員による15分ほどの親子に対しての読み聞かせとお話をブックスタート事業に移行できないかどうかを検討しましたところ、日本国内でのブックスタートは、英国の教育基金団体ブックトラストと連携協力のもとで活躍する特定非営利活動法人ブックスタートが提唱する正確な理念のもとに目的を実現する事業に対して、その名称の使用が許諾されることがわかり、予算をはじめ目的を共有する関係機関や地域ボランティアとの連携などが検討課題となり、今日に至っております。

ブックスタートを実施するに当たり、１冊の絵本を手渡すだけの費用は、年間500人の新生児と試算して40万円程度ですが、その他の経費を合わせると100万円程度と見込まれます。また、現在のスタッフの不足や関係機関、ボランティアとの調整や本の配布後のフォローを考えると、今なお課題が残っております。

財政健全化の中、新規の事業につきまして

は、財政上困難な状況にありますが、他の方法も検討対象に加えながら今後検討してまいりたいと考えますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（中上良隆君）13番　瀧君、再質問ありますか。

13番　瀧君。

○13番（瀧　洋一君）初めての質問で、特に防災に関しまして、本当に立派なご答弁をいただきまして、ありがとうございます。

もうほとんど私のお願いしたようなことも答弁していただいたんですけれども、幾つかお尋ねしたいことがございますので、順にお尋ねしてまいります。

まず、１の地域防災計画なんですが、議会の最終日にお配りいただけるということですので、また、これを拝見した上で、また、次の機会にお尋ねをしたいと思うんですが、１点だけ。

これ、多分、県のアクションプログラムに整合してつくられていっていると思うんですけれども、避難所なんですね、ちょっと気になっているのが。今、実際、一時避難所とか、そういったところがかなり老朽化していて、避難所として大丈夫なのかなと思うような場所もあったりします。

それと、また、幼保一元に関して、今後、休園または廃園、そして、また普通財産として売却を予定されているようなところ、ここが現在、避難所に指定されていると思うんです。そういったところは考慮していらっしゃるのかどうか、お尋ねいたします。

○議長（中上良隆君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）まず、避難場所につきましては35カ所、防災活動拠点施設として10カ所ということで防災計画にも盛り込ませていただいてございます。

確かに、避難所につきましては、老朽化、危険ということで、今、ご質問いただいたわけなんですけれども、担当課、市民安全課のほうでは、先日来の三石保育園の関係もございましたし、各施設につきましては、先日来、巡回もさせていただいてございます。

そういうことで、今後も、指定したからそれで終わりというのではなしに、当然、そういう部分での施設の点検につきましては、市民安全課が中心になりまして、各担当、教育委員会なり、幼稚園、保育所等々への指示も出させていただきたいと、取り組むようにということでの調査については怠らないようにさせていただきたいと考えております。

また、幼保一元化、普通財産の処分ということでございますけれども、確かに幼保一元化、普通財産の売却ということについては、行政の一つの大きな課題として取り組んでおるのが事実でございます。その点につきましては、それによって避難箇所が少なくなるとか、そういうようなことのないように、できるだけ整合をとりながら検討してまいりたいと考えておりますので、よろしくご理解をお願いします。

○議長（中上良隆君）13番　瀧君。

○13番（瀧　洋一君）ありがとうございます。

今、もういっぺん確認したいんですけども、幼保一元で廃園予定のところ、現在避難所に指定されているところ、ございますよね。これ、普通財産として売却というお話は、今、部長の答弁ですと、そのあたりは整合性をとりながらということは、じゃ、これは売却をせずに何らかの市の施設として活用していこうという意味なのか。わかりにくいところがあったので、済みません、お願いいたします。

○議長（中上良隆君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）今の時点で具体的にどうこうするということは、まだ、そこまで結論には至っておりません。

ただ、ご理解いただきたいのは、やはり、避難場所となりますと、ある集落集落、地区地区の中心的な位置にそういうのが必要であるというようなこともあります。ただ数だけつくったらいいということでもありませんので、そういう意味も含めて、今後、総合的に検討させていただきたいということでございますので、よろしくお願いします。

○議長（中上良隆君）13番　瀧君。

○13番（瀧　洋一君）ありがとうございます。したら、ぜひとも、検討のほう、よろしくお願いいたします。

次に２番に行きます。500部ということで、先ほど市長からたくさん、いろいろ、行政から避難施設、防災委員、ずっとといただいたんですが、ひとつ気になっていますのが、これ、自主防災組織、あとの３番でもあるんですが、今、結成準備中まで入れて71ですか。これ、今後もまた増えていくと思うんですが、こういった組織に対して配布されるお考えはございますでしょうか。今、500のうち、先ほど答弁いただいた中で、だいたい幾らぐらい配布されて、予備としてどれぐらい残るご予定なのか。

要は、自主防災組織、こういったところにも持っていってほしいんです。行政とか議員ももちろん持ってないかんですよ。これから自分たちの地域は自分たちで守ろうと、こういったところへやっぱり持っていってもらわんといけないと思うんです。

そういう意味で、何部つくるんやという、どこまで配るんやということをお尋ねさせていただいたんですが、いかがでしょうか。

○議長（中上良隆君）答弁を求めます。

総務部長。

○総務部長（中山哲次君）お答えさせていただきます。

まず、部数については500部ということで、市の関係部局のほうへの配布、それから、議会議員の皆さま方、それから各防災委員、この防災計画を策定するに当たりまして、バス会社とか、電気会社、通信等々、そういった団体への配布、それから、協定しております野洲市、名張市へ。それからスーパーさん、災害時にいろんな緊急食料品の調達もお願いしております。そういうことでの物資協定をさせていただいておる事業所関係、それから、防災計画にも位置づけておりますところの市内の災害拠点施設、10カ所ございます。それから避難所へも35カ所、備えつけさせていただきたいと考えております。

一部、予備も見てはおるんですが、その予備につきましては、我々、自主防災組織と、それから、あとのご質問いただいておりますが、防災講座等での教材として見ていただくために教材用としても確保しておりまして、ご質問の今時点では自主防災組織への配布につきましては予定には入ってございません。その分につきましては、今後、防災講座とか、そういったいろんな機会を通じて、これを活用していきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）13番　瀧君。

○13番（瀧　洋一君）今、お聞きしていましたら、避難所に入るということですので、自主防災組織というのが各区なり、自治会、この単位で進められていると思います。ですから、これ、経費がどれぐらいかかるのか、私もわかりませんけども、少なくとも自主防災組織の方々にご覧いただけるような形をとっていただくか、または増刷とかお願いできたらと思います。これは要望で結構です。

次、３番に参ります。

ここが私、少し気になっているんです。確かに数字は上がってきています。いいことな

んです。今、既に結成済みで31、準備中40を入れて、ほぼ60数％。全国平均がだいたい60％を出たぐらいなんですよね。和歌山県は高いほうです。一番高いのは、当然なんですが、静岡ですね。これ、九十七、八％と言っています。

ただ、これ、よく聞くんです。市のほうから言われたので、自主防災をつくってくださいよって。ひな形をもらってきて、総会、上げてください。それで、組織図というのが要りますねんって。その組織図に避難係、誘導係、情報班、ざっと五つほどあります。ここ、名前、埋めてよって。回覧が回ってきまして、ここ、名前、埋めてよって。埋めたら、はい、これでできました。総会を通して、いや、市から言われてきたのでこうこうこうですねんと。あまり詳しいこと、聞かんとってくださいやって。こんな形で、これ、一つできたと。これが実態なんですよ。

もちろん、熱心に活動されている自主防災組織、幾つも知っています。訓練もされて。また後のほうで触れさせてもらおうと思っているんですけども、市長から答弁がありましたので。災害図上訓練（ＤＩＧ）というやつですね。あんなのを熱心にされているようなところもあります。すごい温度差があるんですね。

それを何とかしようということで、多分、連絡協議会をつくっていただくというお話になってきたんだと思います。ただ、底上げしていかなあかんのは底辺のところ。名前を書いて出したら、これ、補助金がもらえんねん。そやから、つくらなあかんねん。こんな形で市民におりていれば、いくら、この数が増えて、21年に80％に、100％になっても全く機能しないんですよ。これを私、一番危惧して、今回の質問をさせていただいています。

そういう意味で、この指導体制というか、もっと。ただ単につくったらいいじゃなくて。こんなふうにと言われても、多分、市民の方、わからへんのです。だから、行政の方、一生懸命やっていただいています。さらにボランティアもおります。今、橋本市内に防災士という資格を持っている人、18人います。私もこれ、去年、受けてきました。私も資格を取りました。こんな人たち、おります。活用して。それぞれ結成した、最初は形だけやったかもしれへん。でも、それを実効ある組織へと変えていくために、ぜひとも市民安全課のほうで頑張っていただきたいと思うんですが、いかがですか。

○議長（中上良隆君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）まず、１点なんですが、冒頭にご質問いただきました、市の指導でただ名前だけ埋めていただいたということについては、担当課としてはそういう指導はしていないということで確信をしております。ただ、そういうご質問をいただきましたので、戻り次第、確認させていただきます。

ただし、我々、市といたしましては、基本的に議員おっしゃるとおりだと思っております。万が一、有事が発生したときに、行政の押し売りでつくっていただいておりますと、全くもって緊急時に稼働しないということは痛感いたしております。

そういうことで、我々、土曜、日曜、平日関係なく、地元から要望いただいた段階で各班担当、地元へ行かせていただいております。その中では、どの地域というわけじゃないですけども、やはり温度差がございます。「地震なんか来ないよ。何でこんな説明に来るんや」という住民の方もおられます。逆に、我々、津波の話もするんですが、「うちらは津波は関係ないよ」というようなご意見。それから、行政に対する要望なり不平不満もいただいておるという中での自主防災を推進させていた

だいてございます。それが実態でございまして、決してうちのほうから強制的というわけではございません。

それと、連絡協議会という話でご答弁させていただいております。今は、地域におりましても、例えばＡの地区がありましたら、Ａの地区一つで自主防災組織というのが理想なんですが、なかなかそこまでいかないというのが現実でございますので、地域地域で設立していただける有志の方々にお願いして、それの積み上げをしていきたいということで考えておりますので、やはり、地元の方々の能動的な盛り上がりというのを期待させていただいてございますので、その点、よろしくご理解をお願いしたいと思います。

○議長（中上良隆君）13番　瀧君。

○13番（瀧　洋一君）ひとつ誤解があったらいかんなと思うんですけども、市民安全課の方がそんな形でおどしておるということを申し上げておるんじゃなくて、多分、ちゃんと指導はしていただいていると思うんですけども、受け手側がそこまで意識ないんですよね、やっぱりね。南海・東南海地震といっても、橋本の場合、そんなに津波が予想されるわけではない。ただ、こうなっているのは、要するに、市民の防災意識が、正直なところ、まだまだ低いと思うんです。だから、言われたからというふうな受け取りをされるんやと思います。

そういった点で、市民の防災意識を高揚させていく、啓蒙していくことが重要やなと思います。ということで、それを高めていくために、４番、５番ということで質問をさせていただいています。

４番に入らせていただきますが、防災マップ、これ、もうできているんですか。先ほどの答弁、私、はっきりと理解できなかったんですが。活断層なんかも入れてということで、これ、もう既にでき上がっているんですか。

○議長（中上良隆君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）はい。合併後、旧高野口町、旧橋本市の全域を網羅した防災マップにつきましては、でき上がっておりまして、先ほど市長がご答弁させていただきました防災計画の中の添付図ということで、一緒にお渡しさせていただきたいと思います。それから、先ほど議員お尋ねの地震の活断層関係の部分も入ってございます。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）瀧議員には、このことにつきまして大変ご熱心に研究されておるわけでありますが、私としては、何といいましても市民の安全・安心、何が起きましてもこれが一番であります。私、就任してから、本当にこれにかけては、いろいろな面で分野で検討にも入っておるわけであります。

私の基本は、自分たちの地域は自分たちで守りなさいよと、私はどこの会議に行ってもそればっかり言うとるんです。守らんところはどうなるのかって、限られた職員の、市民安全課わずかの人間で昼夜分かたず座談会やらでＰＲをやっておるんですけど、体制を強化すりゃ何ぼでもできるんですよ。それもなかなか限度があるわけですから、やっぱり、そこらは区の役員さんで皆さん、アンテナをしっかり立てていただいて、勉強、研さんを積んでいただいて、また、「消防署から消火器の訓練に来てよ」とか、どんどんと強く要請をしていただくことも大事であるんやないかな。

ただ、市の職員としましては、意識を高めていくために、平成７年１月17日、午前５時46分ですか。これは私の終生忘れることのできない大きな阪神・淡路大震災。芦屋市の建設部長に２日間、２回来ていただきまして、

全職員がそれの研修を受けました。本当に涙ぐましい研修で、２カ月間、自分の家へ帰らずやという、そういう研修も受けたり、あるいは、職員が国城山に早朝５時半から終結して訓練。今年、雪降ったら雪中行軍する予定でおったんですけど、悲しいかな、雪はなかったわけであります。

また、９月１日の防災の日には、今度、高野口の庚申山と、そして万葉の真土山、あそこいっとに班編成をして、そして行軍するというんですか、防災を想定してやっていく。あらゆる方法で職員もそれに関心を持っていただいておるわけであります。

問題はこれからですね。去年からスタートしたところでありますので、いろいろとご意見もあろうと思いますけども、ひとつ、先導的な役割を瀧議員も果たしていただくように、地域におきましてよろしくお願いしたいと思います。

○議長（中上良隆君）13番　瀧君。

○13番（瀧　洋一君）市長、心強いご答弁、ありがとうございます。

この件に関して立派な答弁をいただいておるので、あまりお尋ねするということじゃないんですけども、時間もあまりありませんので、要望としてお聞きください。

先ほど、防災マップできておる。これは防災計画に添付する資料だということなんですが、ぜひとも市民に全戸配布するような形でお願いしたいと思います。また、これに関しては、多分、補助金もあったかと思います。

その際なんですが、旧高野口町は、こんなマップですね。これ、１枚。旧橋本市では防災ハンドブックという形で配られていまして、こっちは地図がありません。ただ、こちら、防災に関してのいいことがいっぱい書いてあるんです。これ、一家に一冊備えつけておいてもらって、本当にいいものなんです。ただ、残念ながら地図がない。高野口町のほうは、地図はあるんやけど、もちろんかいていただいているんやけども、旧橋本市のを見たら、やっぱりこっちのほうがええなと当然思うので。これ、合わせたような形でできひんのかな。

和歌山市は、内容は橋本市より薄いです。薄いんやけども、こうやって書いてまして、最後に、これ、地域ごとに分かれておるんですが、地図を挟み込むような形になっています。こんなのもご参考にしていただきまして、ぜひともいいものをつくっていただけたらいいなと思っています。もう時間がありませんので、これ、要望しておきます。

それと、あと、もう一点、防災講座。岸和田市で、和歌山大学が協力して、７月１日から市民防災基礎講座というのをやります。また、県のほうでも、これ、毎年やっておりますけれども、高校生を対象にした防災講座、そして、また、防災リーダーを育てようということで紀の国防災人づくり塾。これ、年間百四、五十名おりましたね。定員100と言ってたんですが。そういった防災意識を高めるような講座をしております。

そんな難しい話じゃなくても、県政おはなし講座とかもあります。また、ボランティアもおりますので、費用のかからん形で、できるだけ自主防災にかかわられるような方、また、広く一般市民に啓蒙するような意味で講座を開設していただきたいと思います。

以上で１番目のほう、要望いたしまして、終わらせていただきます。

次の２点目、絵本を通した子育て支援に移らせていただきます。

部長の答弁で、絵本は非常に大事やというご認識を持っていただいておりまして、また、平成16年に検討していただいている。非常にありがたいんですが、結局、挫折したのは、

予算とそのスタッフ、スタッフというか、プロジェクトをつくるなり、そういうところで挫折して今に至っているんでしょうか。そこをもう一回、ご説明いただけますか。

○議長（中上良隆君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（上田敬二君）平成16年に乳幼児健診を担当しております健康課､それと、子育て支援を担当しておりますこども課、それと図書館、この三つの部署でそれぞれ実務担当者会を開いております。そこで検討したわけですけれども、検討の内容につきましては、10カ月のフォロー教室というのがあります。若干、発達につまずきがあるのではないかと疑われる子どもさんと保護者の方を交えてのフォロー教室を開いております｡そこで、図書館員に来てもらって、読み聞かせを既にやているんですけれども、やっている事業をブックスタート事業に移行できないか、そういう検討をしました。

検討したんですけれども、ブックスタートにつきましては、先ほど答弁させていただきましたように、ＮＰＯといろいろ、その目的の趣旨ですとか、本につきましても、パック詰めにして、まずはゼロ歳児健診等で渡すとか、いろんな手続き的なものがありまして、そこまで市の行政のほうで対応できるか、それとボランティアの確保等の問題もあって、継続性を保てるかどうかというのがネックになったように聞いております。

それで実現ができずにいてるわけなんですけれども、趣旨については大いに賛同できるところなんですけれども、今すぐやりますとは、今回、まだ具体的な検討には至っておりませんので、ご返事できませんけれども、今後、やれるかやれないかについて検討させていただきたいと思っております。

○議長（中上良隆君）13番　瀧君。

○13番（瀧　洋一君）ちょっと心もとないあれかなと思うんですけども、まず、もう一回認識していただきたいんですが、フォローアップというのは、すべてのお子さん対象ですか。済みません、お願いします。

○議長（中上良隆君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（上田敬二君）すべてのお子さんが対象ではありません。それもネックでありました。ブックスタートというのはすべてのお子さん対象で、満遍なくということですので、若干、趣旨が外れていたのかなと思っております。

○議長（中上良隆君）13番　瀧君。

○13番（瀧　洋一君）そこなんですね。私、別にＮＰＯとは何の関係もないんです｡ただ、地域で生まれたすべての子ども、ここが大事なんですよ。いろいろ、今、交流会とか親子サークルとか、図書館で読み聞かせしていただいているの、私、十分、存じ上げております。ここに来られる方、一部でしょう。今、フォローアップで、言葉はどうなのかもしれませんが、ちょっと心配な方々を対象にと。そうじゃなくて､500人です｡橋本市で生まれた子ども､みんな元気に育ってほしいんです。だから、みんなにプレゼントしようという、これがブックスタートです。

そして、図書館とかで読み聞かせをやっていただいている。非常にいいことです。公民館でやっていただいている。また、多くのボランティアの方々に読み聞かせしていただいています。でもね、これ、プレゼントするということは、家で、毎晩、お父さん、お母さんがだっこしてなり、添い寝しながらでも、いつも読んであげれるんです。

私、壇上からも申し上げましたけれども、これ、物をあげるんじゃないんですよ。絵本を通して、その触れ合いの時間、これをプレゼントする事業です。心を育てる大事な事業なんです。だから、図書館でやっています。

いいんですよ。いいんやけども、いつでも、どこでもできる、すべての人に、すべての市民に。ここを外してもらったら困ると思うんです。

予算がないという話も出ました。100万円ですか。大きいお金ですよ、この財政難。だけど、この辺はいろいろ解決していく道があるんやないかなと思います。予算のことは、後でまとめて質問させていただくんですが、要するに、これ、配っただけで終わりじゃないので、その後のフォローアップ、読み聞かせ、ここも課題の一つやと思うんです。

今、部長、いろんな関係機関が集まってということで、例えば図書館。図書館においてもこういった事業をするのであれば、絵本というのは発達段階に応じて、ゼロ歳のとき、６カ月のとき、１歳のとき、それぞれに応じた絵本があると思うんです。そういった形で、例えば図書館に、今の発達段階からいって、この月齢の子やったらこんな絵本がいいですよ。すぐに手に取れるように置いていただいたり、そんなことも必要かと思います。

これ、健康福祉部だけの問題じゃないと思いますので、図書館とかにも一体となって推進していただかないといけないと思うんです。教育委員会のほうでは、その辺の体制とか、このブックスタートについての所見をお聞かせいただけますでしょうか。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）このブックスタートというのは、本当にすばらしい試みであると思っております。その理由といたしまして、絵本を介してゆっくり心触れ合うひとときをつくれると、そういうのが一番大事であるということ、乳幼児からそういう教育、人間が就学前の子どもからできるということも言われております。それと、最近、虐待等がございますので、やはり子どもを真剣に育てるという親の意識の改革にもなるのではないかという点でも大変大事な試みであると感じております。

今、健康福祉部長おっしゃっていただきましたように、予算等につきましては、市長部局とも協議していく必要がございますので、大切な試みであるということはわかっておりますけれども、今後、市長部局と十分協議してやっていきたいと、こういうふうに思います。

○議長（中上良隆君）13番　瀧君。

○13番（瀧　洋一君）教育長、どうもありがとうございます。

確かに、それだけ認識していただけたら非常に心強いと思います。あとはやっぱり予算ですか。100万円。

例えば厚生労働省雇用均等・児童家庭局で児童ふれあい交流促進事業というのがあります。これは、子育て家庭の支援と児童の健全育成を目的として市町村が事業実施主体となって行う４種の事業、そのうちの一つに絵本の読み聞かせ事業というのもあります。これに対して費用を国が補助していこうというものです。これ、使えませんか。予算が厳しい。いろんな事業がある。多分、今、この事業、市では使っていないと思います。というふうにきのう聞いてみたんですが、財政課長にお聞きしたところ、「今のところ、これ、使ってないようです」というようなことをお聞きしました。

苦しい財政の中、でも、橋本市のこれからの子どもたちを育てていく中、そんな大きい話じゃないので、この辺の事業も使って、「よし、やろうや」と、いっぺん前向きにやっていこうや。やるかやらんかの検討やなしに、やることに向けていい答弁をいただけますでしょうか。

○議長（中上良隆君）副市長。

○副市長（清原雅代君）私も瀧議員のおっしゃられるブックスタート事業、非常にいい事業だとは思います。ただ、財政を預かる者といたしまして、例えば、今、国から言われております大滝ダムの建設の変更額の負担増加を求められておりますよね。それから、19年度、20年度、さらに21年度にかけても新たな広域のごみの建設の負担金、それと、いろんな新たな、一般財源を伴う事業をやっていく中で、やはり、今、行っている事業のスクラップ・アンド・ビルド、スクラップがどうしても必要になるんです。そこのところの議論をしっかりしていかないと、今回も議員の皆さま方からいいご提案をたくさんいただいているんですけれども、それをやろうと思えば、やはりスクラップをまず考えていかないと取り組んでいけないというところがあります。

そこについては、例えば、自分のところでこれだけ削って、それに取り組むというところを、また、各課のほうからご提案もいただきながら、いただいているご提案につきましては検討していきたいと、このように考えております。

○議長（中上良隆君）13番　瀧君。

○13番（瀧　洋一君）この事業に関して、いいというのは、だれも「これ、あかんで」という声はどうもないようなので、安心しておるんですが、そうしたら、あと、お金の話。

大滝ダム、きのう、７番議員も質問されていましたけども、あれが金かかるから、こんなええ事業できひん。市民、怒りますよ。ただでさえ４億何ぼもといって。わかるんですよ。今の現行法制度でって。今回、通告外なので、それは言いませんけど。で、この100万円が出せん。おかしいよ。市民、怒りますよ。

何も、私、これ、すぐせいとまでは言いません。けど、市長、安心の子育てというのをずっと言われています。また、生ごみのリサイクル、これも本当に敬服しています。生ごみをリサイクルして、週２回の収集が週１回になってきたんやと。これ、どんどん増えていくんや。10億円かかってたのが３億円減らせるねんで。そしたら、その浮いたお金、子育て支援に使いましょう。よく言っていただいています。

いい事業やないですか、これ。市長、その辺。そんな大きい、私、無理を言うておる金額やないので、前向きの答弁をいただきましてと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（中上良隆君）副市長。

時間、31分までですので、簡潔に答弁を願います。

○副市長（清原雅代君）私は、決して瀧議員のおっしゃられていることに反対を唱えているものではございません。先ほど挙げた事業というのは例が悪かったかなとは思いますが、要は、本当にすべき、市民が必要としている事業を私たち職員、一丸となって、その辺もきちっと認識した中で事業を選択していくということが、まず第一であるかなと考えておりますので、そこのところをきちっとした中で議論をさせていただいて、取り組むべき事業は取り組んでいきたいと、このように考えております。

○議長（中上良隆君）これをもって、13番　瀧君の一般質問は終わりました。

この際、10時45分まで休憩いたします。

（午前10時31分　休憩）